

ヤングアダルト通信

VOL.167号 (2022.3)

(発行：碧南市民図書館 0566-41-0894)

「多様性」を考える

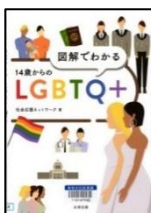
さまざまな人たちがいる社会で暮らしている私たち。そんな社会の中でお互いの多様性を認め合い、理解するために役立ててほしい本を集めてみました。

LGBT(性の多様性)を考える

図解でわかる 14歳からのLGBTQ+

社会応援ネットワーク／著
太田出版 **Y367ズ**

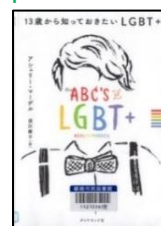
図説により「LGBTQ+」や「ジェンダー」などについて、さまざまな角度から学ぶことができる本です。



13歳から知っておきたいLGBT+

アシュリー・マーデル／著
ダイヤモンド社 **Y367ジ**

性とジェンダーの多様性を知るためのガイドになる本。多様なアイデンティティを理解するために役立ちます。



スカートはかなきゃダメですか？

名取 寛人／著
理論社 **Y769ス**

女性として生まれ、性別適合手術を受けて男性になった著者。ダンサーになるという夢も叶えた著者が、いろんなハンディキャップがあっても、「夢は叶えられる」と自身の体験をもとにつづります。



恋の相手は女の子

室井 舞花／著 岩波書店 **Y367コ**

女性である著者が初めて好きになった相手は女の子でした。このことに悩んだりもありましたが、様々な困難を乗り越え女性と結婚パーティーをするまでに。そんな経験を踏まえ、多様な人たちが安心して暮らすことのできる社会への思いを語ります。



変化球男子

M.G.ヘネシー／作
鈴木出版 **Y933へ**

シェーンは男の子だけれども、体は女の子というトランスジェンダー。このことは親友にも話していない秘密だった。しかし、ある日、女の子として過ごしていたときの写真が出回ってしまう。



ぼくがスカートをはく日

エイミ・ポロンスキー／著
学研プラス **Y933ポ**

グレイソンは女の子になりたいと思っている男の子。ある時、学校で演劇のオーディションがあることを知ったグレイソンは、勇気を出して、女神役に立候補する。



人種を考える

私、日本に住んでいます

スベンドリニ カクチ／著
岩波書店 **Y334ワ**

外国から来て日本に住む人たちの声を著者が紹介します。外国から来た人々の多様な文化を知ることで、多文化共生のあり方も考えます。



ジェミーと走る夏

エイドリアン・フォゲリン／作
ポプラ社 **Y933ジ**

白人のキャスのお隣に引っ越してきたのは、黒人のジェミー。友だちになれるはずの二人でしたが、人種の違いを乗り越えるのは簡単ではなかったのです。



ザ・ヘイト・ユー・ギヴ

アンジー・トーマス／作
岩崎書店 **Y933ザ**



スターは黒人街で暮らす女子高生。ある日の夜、親友のカリルが彼女の目の前で警官に射殺されてしまう。この事件は全米で報道されるが、真実とは違うかたちで広まる。これではいけないとスターは、カリルの無念を晴らすため立ち上がる。

キャラメル色のわたし

シャロン・M.ドレイパー／作
鈴木出版 **Y933キ**



イザベラは黒人の父と白人の母のあいだに生まれ、肌はキャラメル色をしている。彼女は、学校で黒人の友人に起きたことなどを通じて、自分自身のアイデンティティについて考えるようになる。

支える、支えられる、支え合う

サヘル ローズ／編著
岩波書店 **Y369サ**



さまざまな経験をし、現在は難民キャンプを支援する著者が、他者を理解し、支え合うことの大切さを語ります。

宗教ってなんだろう？

島園 進／著 平凡社 **Y160シ**

多様な人々がいる社会では、信じている宗教もさまざまです。そんな宗教を理解するための助けになる一冊。



他にも考えたいあれこれ

A・L・C あるく 9号 「あいち！」

愛知県内の図書館員が、ティーンのみみんなにオススメ本を紹介する「A・L・C あるく」。今年発行された9号のテーマは「あいち！」。それにちなんだ本を少しだけ紹介します。9号の冊子は本館のYAコーナーにあります。ぜひご覧ください。

司書のお仕事 1、2

大橋 崇行／著 小曾川 真貴／監修
勉誠出版 **Y031シ**



図書館司書のお仕事をストーリー形式で紹介した本。利用者の方からは見えない裏側のお仕事も丸わかりです。この本を監修されたのは県内の図書館にお勤めの方です。

夜間中学へようこそ

山本 悦子／作 岩崎書店 **YFヤ**

中学1年の優菜には76歳の祖母がいる。ある日、祖母は夜間中学へ通うことになったと言ってきた。優菜とその母は賛成をするが、父はあまりいいように思っていないで…。作者の方は愛知県出身です。



本館の席の空き状況も配信しています。ぜひチェックしてみてくださいね！

スガリさんの感想文はいつだって斜め上

平田 駒／作 河出書房新社 **YFヒ**

女子高生のスガリさんが愛知県内初の家庭科教師・杏介と立ち上げたのは「読書感想部」。でも、スガリさんが書く名作文学の感想はいつも斜め上だったので。「スガリさん」シリーズは5巻まで出ています。



碧南市民図書館
公式ツイッター



@hekinyago

担当のつぶやき

今回のテーマに合わせて、図書館に入っているDVDの中から『ボーイズ・ドント・クライ』を紹介します。実際の事件をもとにして作られた映画で、自分の性別に違和感を持ち、男性の恰好をして暮らしている女性が主人公の物語です。こんな悲しい事件が二度と起こらないようにするためにも多くの人に観ていただきたい作品。主演のヒラリー・スワンクの演技も素晴らしいです。ぜひどうぞ。🕒